

Newsletter

Vol. 01
Apr. 2019

Center for Research on the Dynamics of Civilizations

編集・発行：岡山大学大学院社会文化科学研究科附属文明動態学研究センター
発行日：2019年4月30日

文明動態学研究センター開所式

2018年10月1日に、大学院社会文化科学研究科内に人文社会科学における関連諸分野と理化学的研究を統合した学際的研究体制を構築し、文明動態を長期的かつ学際的な目で読み解き、未来への視座を得ることを目的として、岡山大学社会文化科学研究科文明動態学研究センターが設置されました。

本研究センターでは、新しい研究法の開発及び調査研究を進めるため、学内外の最先端の技術をもつ理系研究者との密接な共同研究を行うとともに、岡山地域を核とした研究成果を、国内外の多様な自然環境・歴史的過程による事例と多角的に比較研究するため、本研究センターが主体となって全国・海外の機関と連携し、学際的・先進的な研究を推進するネットワークの形成を目指しています。

センターは文明基礎科学研究と社会動態研究の2つのセクションがあり、社会文化科学研究科や教育学研究科、自然科学研究科、環境生命科学研究科など兼任教員31名から構成されています。

文明基礎科学研究セクションでは、資料から社会や環境に関する新たな情報を得るための新しい研究法の開発を行います。理化学的な分析をはじめ、コンピューターを用いたシミュレーションやGIS(地理情報システム)分析によるモデル化も行うとともに、最新のデジタル技術を駆使した研究成果の効果的発信、文化遺産活用、教育プログラムの開発等を行います。また、最終氷期の終了による大規模な環境変化から近年の気候変動まで、環境変化の実態を理化学的分析法により詳細に復元し、考古学的・歴史的データから復元される人間活動の変化とつき合

わせることで、人と環境の間のダイナミックな関係を明らかにします。人類史の大半を占める狩猟採集社会における環境適応・環境改変の実態、人類にとって大きなターニング・ポイントである農耕の開始、周期的な気候変動に対する文明の対応など、普遍性の高いテーマについて研究します。

社会動態研究セクションでは、社会的階層やジェンダー、集団間関係など、社会的なシステムや人間関係がどのような要因で変化するか、環境変化や人口変動などの要因を見据え、爆発的な人口増加と技術発達を特徴とする人類特有の社会形成の実態を明らかにします。特に、国家形成に至るメカニズムの解明は、社会動態の理解を深める上で重要であり、他地域との比較研究による国際的研究の進展に寄与します。

除幕式には、狩野光伸副理事、久保園芳博異分野基礎科学研究所長ら、センターに関係する教職員約30人が出席しました。除幕式の後にはセンターの見学を行い、西日本豪雨で、洪水被害にあった資料の復元作業を紹介したほか、意見交換会も実施しました。



除幕式の様子

欧州との共同プロジェクト「BE-ARCHAEO」キックオフと調印式

2月21日、岡山大学とトリノ大学(イタリア)を代表とする欧州の研究機関・企業との共同プロジェクト「BE-ARCHAEO(考古学を超えて)」のキックオフ・ミーティングと調印式が岡山大学で行われました。

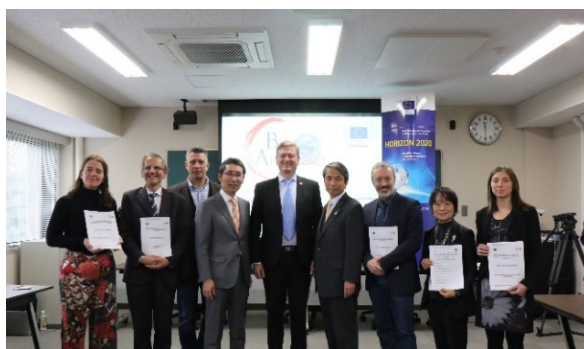
「BE-ARCHAEO」は古墳の発掘調査や収蔵資料の分析などを通じ、他の時代や地域にも適用可能な新しい学際的研究方法論を確立し、古墳時代の葬送儀礼や社会変化を丁寧に再構築することを目標としています。

欧州からは考古科学に実績があるトリノ大学や年代測定や遺跡探査、デジタル復元を手掛ける企業など6研究機関・企業が参加し、本学からは考古学を中心としつつ自然科学研究科や資源植物科学研究所、惑星物質研究所などから多くの研究者が参加します。

キックオフ・ミーティングと調印式には、榎野博史学長、佐野寛理事を含め、日欧の関係者約30人が出席し、駐日欧州連合代表部の一等参事官／科学技術部長であるゲデミナス・ラマナウスカス氏から祝辞をいただきました。

プロジェクトは今後4年間に亘って実施され、欧州側の研究者や技術者約30人が毎年岡山大学を訪れます。今夏より古墳時代後期の鳶尾塚(とびおづか)古墳(総社市)の発掘調査や、出土品の考古科学的分析を進めます。

またプロジェクトでは文化遺産をできるだけ傷つけない新たな分析技法を開発し、知識を創造、遠く



左からリスボン大学ディニス教授、トリノ大学バリコ教授、TerraMarine社ソティロプロス氏、佐野理事、駐日欧州連合代表部ラマナウスカス氏、榎野学長、IRIAE ベトレラ氏、田中研究科長、TecnoArt アンジェリチ氏

離れた社会の多様な歴史経験を広く一般の方に伝えるという目標もあり、2022年に研究成果を島根県立古代出雲歴史博物館とトリノ東洋美術館で展示する予定です。

文明動態学研究センターキックオフ・シンポジウム

2月21日の午後、「BE-ARCHAEO」の始動を記念してキックオフ・シンポジウムが開かれました。シンポジウムでは、伊原木隆太岡山県知事や榎野博史学長から挨拶をいただき、プロジェクトの関係者や地域の方々など100名以上が参加しました。

第一部では複数の学問分野が協力して研究する意義や、日欧の発掘調査法の違いなどについて、トリノ大学のエリアーノ・ディアナ教授や国際考古学人類学研究所のダニエレ・ペトレラ氏、清家章セクション・リーダーが講演しました。また第二部では文明動態学研究センターの視座をテーマに、国立歴史民俗博物館の後藤真氏と南山大学人類学研究所の中尾央氏が講演しました。



「発掘調査法の日欧比較の場としての鳶尾塚古墳」をテーマに講演するダニエレ・ペトレラ氏

BE-ARCHAEO の活動については、プロジェクトのウェブサイト(<https://www.bearchaero.com/>)で随時公表されます。

西日本豪雨被災歴史資料の救出活動 本格スタート

西日本各地に大きな被害をもたらした7月の豪雨により地域における人間活動の痕跡を示す諸資料が滅失する危機が眼前にありました。地域社会のレジリエンスに資することができるよう、被災資料の救出活動をボランティア組織の岡山史料ネットと連携して行っています。被災歴史資料の洗浄・乾燥・修復・整理などの作業を岡山史料ネットと連携して原則として月曜日の午後にボランティアを集めての作業を行っています。

この間の取り組みについての報告は、

- ① 2018.10.23 「災害と博物館施設」(岡山県博物館協議会 於:倉敷市美術館)
- ② 2018.10.26 「地域の記憶と災害 —今回の西日本豪雨と岡山史料ネットの活動より—」(『岡山から文化芸術資源の保存について考えるシンポジウム』主催:岡山大学大学院教育学研究科国吉康雄研究寄付講座、於:岡山大学 鹿田キャンパス JUNKO FUKUTAKE HALL (Jホール))
- ③ 2019.3.16 「西日本豪雨における被災史料救済の現状と課題」(『公開フォーラム被災地と史料をつなぐ—歴史資料の被災状況と保存技術の共有—』於:東北大学災害科学国際研究所)で行っています。

今後は、平成30年度よりはじまった、神戸大学・東北大学・人間文化研究機構を中核拠点とする「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」に参加し、全国の「史料ネット」活動を展開する各大学が連携し、地域社会における歴史文化継承の担い手養成に向けた教育プログラムの開発と、国内外にむけた情報発信を行う予定があります。また、今年度以降、キックオフ・シンポジウムで示されたような、新たなデジタル人文学の構築にむけた取り組みを準備・強化するために、研究会などを開催する予定になっております。



運び込まれた被災歴史資料



被災歴史資料の洗浄の様子



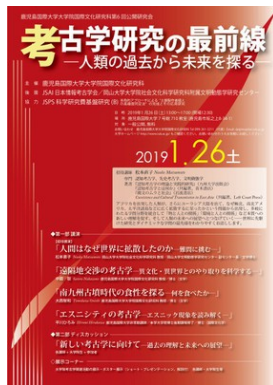
被災歴史資料の修復作業

講演・シンポジウム

歴博国際シンポジウム「日本の古墳はなぜ巨大なのか—古代モニュメントの比較考古学—」(2018年11月17、18日、明治大学アカデミーコモンで開催)を後援しました。松本直子副センター長、清家章セクションリーダーが報告を行いました。



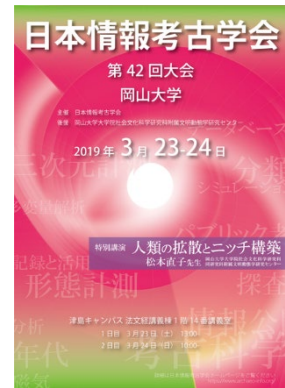
鹿児島国際大学大学院国際文化研究科第6回公開研究会「考古学研究の最前線—人類の過去から未来を探る—」(2019年1月29日、鹿児島国際大学で開催)を後援しました。松本直子副センター長が、招待講演「人間はなぜ世界に拡散したのか—難問に挑む—」を行いました。



国際シンポジウム“Pastoral Care and Monasticism: ca. 800–1650”(2019年3月1日、2日、岡山大学で開催)を後援しました。大貫俊夫センター兼務教員らが報告しました。シンポジウムの成果は約1年後に論文集としてドイツの出版社から出版される予定です。



日本情報考古学会第42回大会(2019年3月23日、24日、岡山大学で開催)を後援しました。松本直子副センター長が特別講演「人類の拡散とニッチ構築」を行いました。



メディア PICK UP

10月2日、山陽新聞で大学院社会文化科学研究科附属「文明動態学研究センター」開所式が取り上げられました。

10月10日、NHK 岡山の「ひるまえ直送便▽被災した史料を救いたい」、10月11日「もぎたて！」にてボランティア活動の様子が放送されました。

10月19日に産経新聞に岡山大学大学院社会文化科学研究科の記事の一環として文明動態学研究センター開設の記事が掲載されました。

1月14日に山陽新聞に文明動態学研究センターの設立や展望について田中共子センター長の談話が掲載されました。

2月1日、南日本新聞に松本直子副センター長が、招待講演「人間はなぜ世界に拡散したのか—難問に挑む—」をテーマに未知の環境への移動によって、人類が急激な進化を遂げていった過程を語ったことが掲載されました。

2月22日の山陽新聞に欧州との共同プロジェクト BE-ARCHAEO キックオフと調印式とシンポジウムの開催についての記事が掲載されました。また駐日欧州連合代表部のウェブサイトでも広報されました。

https://eeas.europa.eu/delegations/japan/59840/bearchaeo-kick-meeting-and-symposium_en